

平氏遁走（大野恵造）

知木曾勢迫京師 平氏周章狼敗甚
乃奉神器擁幼帝 一門急遽走西海

木曾勢 京師に 迫るを 知るや

解説 木曾の源義仲軍に攻め込まれた平家は九州に逃れる様子を述べた詩。

平氏の 周章 狼狽すること 甚だし

語釈 ※木曾勢 木曾の源義仲軍。 ※京師 みやこ。帝都。

※周章 かわてふためくこと。うろたえ騒ぐこと。 ※狼敗 。

※神器 皇位のしるしとして歴代の天皇が受け継ぐ三つの宝物。

やたのかのみくさなぎのつるぎ やさかにのまがたま
八咫鏡・草薙剣・八坂瓊曲玉の三つをいう。三種の神器。

※幼帝 幼い安徳天皇。 ※急遽 いそいで。にわかに。

※西海 現在の九州地方。

乃ち 神器を 奉じ 幼帝を 擁して

一門 急遽 西海に 走る

通釈 義仲軍が都に迫ったことを知った平家は慌てふためき狼狽することが甚だしかった。覚悟を決めて、都から去る決意をし、三種の神器と幼帝を従えて一門は急遽、九州に向かい走った。